



【編集・発行】 社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会 平成26年1月1日発行

この広報誌は一部共同募金の助成金により発行されています。

特集 「新春鼎談～黒部の未来をよむ～」

地域の今を届ける密着レポート／小学生が車椅子体験
イベントpick up!／ここにこまつり
新連載／ふくしスマイル・ワーカー
etc.

うなづき

[場所] 黒部市宇奈月老人福祉センター
介護予防通所事業
生き生き倶楽部

時間/9:30～15:00
参加無料!
対象/65歳以上の方 ※■は休館日

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
	書初め	書初め		書初め	書初め	
12	13	14	15	16	17	18
		ヤンバイ映画館	ヤンバイ映画館	ヤンバイ映画館	ヤンバイ映画館	
19	20	21	22	23	24	25
	新川荘			新川荘	新川荘	
26	27	28	29	30	31	1
	健康体操	健康体操		健康体操	健康体操	

くろべ

[場所] 黒部市福祉センター
介護予防のための
元気はつらつ体操教室

時間/10:00～11:00
参加費/300円(入館料のみ)
対象/65歳以上の方 ※■は休館日

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
			健康体操A	健康体操A	健康体操A	
12	13	14	15	16	17	18
		健康体操A	新年会	新年会	新年会	
19	20	21	22	23	24	25
		新年会		アロマ・ヨガ	アロマ・ヨガ	
26	27	28	29	30	31	1
		アロマ・ヨガ	アロマ・ヨガ		健康体操B	

今月の作品

生きがいヤンバイ映画館

昭和50年作品
**男はつらいよ
～寅次郎相合傘～**

出演/渥美清・浅丘ルリ子
1月14日(火)・15日(水)・16日(木)・17日(金)
時間/13:00から **入場無料!**

どこでもヤンバイ映写会

お問合せください
来て見てヤンバイ映画館に行くことができない方を対象に、「どこでもヤンバイ映写会」を開催しています。

- 山間部など遠くにお住まいの方
- 体などの理由や障がいがある方

編集後記

今月号より誌面をリニューアルし、より深く、よりわかりやすく、より身近な情報をお届けします。特集の鼎談は和やかな語り合いの中から、エピソードを交え力強い考えをお聞きしました。ぜひ、ご意見ご感想や情報をお寄せください。

編集 中野

1月の来て見てヤンバイ映画館はお休みです

福祉・ボランティアに関することは
社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会
http://www.kurobesw.jp/hello.html

- 本所 黒部市福祉センター内
〒938-0022 黒部市金屋464-1
TEL.(0765)54-1082(代表) FAX.(0765)52-2797
TEL.(0765)57-1089(ケアセンター・ホームヘルプセンター)
Eメール kurobesw@ma.mrr.jp
- 宇奈月支所 黒部市宇奈月老人福祉センター内
〒938-0862 黒部市宇奈月町浦山2111
TEL・FAX.(0765)65-9533
Eメール u-shakyo@ma.mrr.jp

今月の相談日

民生委員児童委員と心配ごと相談 行政相談員と行政相談	弁護士と法律相談
黒部市福祉センター 1月14日(火) 13:30～15:30 黒部市立中央公民館 1月10日(金) 13:30～15:30 (宇奈月町浦山2100-2)	黒部市福祉センター 1月21日(火) 13:30～15:30
ご予約不要です	予約受付 1月6日より

今月の湯

1月 4日(土)～12日(日) コラーゲンの湯	誕生日のお祝いにセンターの入浴券の贈り物はいかがですか? 11枚綴り 3,000円
1月14日(火)～19日(日) 朝顔の湯	
1月21日(火)～26日(日) ひのきの湯	
1月28日(火)～31日(金) ロイヤルゼリーの湯	

町内の会合や趣味の集まりに、黒部市福祉センターをご利用ください。
ちよこ情報 [黒部市の人口] 42,108人 [65歳以上の人口] 11,964人 高齢化率 28.2%
H25.12.1 現在(外国人を除く)

特集

新春 鼎談

黒部の未来をよむ

子どもは、家庭で育て、
学校で教え、
地域で鍛える

中山教育長（以下、敬称略） まず私から、学校教育という点からお話したいと思います。東日本大震災後、被災地の規律ある行動あるいは忍耐強く互いに助け合う姿に世界中の人々が尊敬し賞賛したという報道がありました。これは、日本人の心の中に、「人のため」「人と共に」という昔からの教えが自然に身につけていたからではないかと思っています。黒部市では、地域住民が思いやりをもって共に支え合い助け合う地域福祉の推進を掲げており、小中学校でも県教育委員会と県社会福祉協議会との



黒部市社会福祉協議会で
は、第二次地域福祉活動
計画策定のため、市内全
地区（16地区）での住民座
談会や、中学2年生を対
象とした地域生活に関す
るアンケートを行い、各
世代の声を集めました。
今回は、アンケート結果
もご覧いただきながら、
お三方に黒部の未来につ
いてざっくりばらんにお話
しいたきます。

聞き手 黒部市社会福祉協議会 地域福祉課長
古野 智也



黒部市教育委員会教育長
中山慶一氏

黒部市社会福祉協議会長
松井敏昭氏

黒部市長
堀内康男氏

共同福祉教材「ともに生きる」を活用しながら、福祉教育の目標に向かい実践し、それなりに成果をあげていると考えています。アンケート結果を見ると、「近所の方々はあいさつや声かけをしてくれませんか？」では、91%が声をかけてくれるということで、あいさつ運動などの成果が出ているんだろうと感じました。一方で、「近所づきあいをどう思いますか？」は深くかわりたくない、わずらわしいと感じる子どもたちが25%、「近所の方々に感謝の気持ちはありますか？」も30%が感謝の気持ちはないという結果です。（次ページ図1参照）このような気持ちをどう育てるか？

松井会長（以下、敬称略） そうですよね。私の地元でも交通安全で街頭に立っているときや、地区子どもたちに会う時でも、よくあいさつしてくれませう。逆に大きくなるにつれて、恥ずかしいとか遠慮とかの気持ちがあるんですけど、うか、だんだん少なくなっていくように感じます。

堀内市長（以下、敬称略） 児童、生徒の時は地域の関わりも多くて、つながりが大事だと感じていると思います。しかし、年を重ねると頭の中では子どもの時の教えや教育されたことがわかっていくけれども、だんだん個人主義、楽な方に流される結果、家庭でも同居は嫌だし、地域ともあまりわずらわしい関わりもしたくないし、という考え方も増えているような感じ



集まる場、 つながる場

松井 私が子どもの頃なんかは、若い衆の宿とか年寄りの宿など人が集まる場所がたくさんあったんです。様々な語り合いと笑い声の場があり、嫁さん探しの話もありました。また青年団活動も活発で、盆踊りなんかの出会いの場もあっ

たような時代でした。住民座談会の結果にも、若者の出会いの場や仲人さんの養成、婚活企画の要望などもありました。やはり時代は変わっても集う場、つながる場というのは求められていることがわかりますし、今の時代にマッチした形を考えていく必要があるかもしれませぬ。もっと、自由に公民館を活用していくのも1つの方法ではないでしょうか。

中山 地域住民の集まる場と言えば、公民館があります。市内の公民館活動はかなり活発に行われています。講座やサークル活動、公民館祭りなど、どの地域も一生懸命やっておられます。にぎやかなんだけども来られる方が限定されている、どうやってたくさんの方に来ていただくかというのが悩みだと館長さんはおっしゃっています。

堀内 公民館は、市でもいろいろな助成はしていますが、基本的に地域のもので、みなさんの総意で決めれば、有効活用することはできます。

私は生まれも育ちも沓掛ですが、沓掛公民館というのはかなり利用されています。それはやっぱり、共通のテーマ「獅子舞」というのがあって、小学3年生から獅子舞に全員が参加することもあり、これを世話する若い人たちが、それを支える町内の役員の人たちがおられて、この方々

などが中心となって、お祭り前は公民館で1ヶ月以上、準備をしたり練習をしたりして、たくさんの方が集まって活動し、終われば終わったで片付けがあります。そういう何か共通の目的があれば集まったり団結したりということが非常に上手くいくのかなと思います。

中山 住民同士のつながりについて言えば、私の住んでいる浦山地区の栃屋に新興住宅地ができています。その栃屋には獅子舞保存会があります。獅子舞は、新しい住宅地の子どもも小学1年生になったら獅子舞に参加させ、踊りの日には全員舞台上上げて、ひとりずつ名前を紹介するんです。聞いたことのない苗字だと他所(よそ)から来たんだとわかりませんが、違和感なく子どもたちは参加しています。親も手伝いや見に来ていて、その中で親同士のつながりが生まれるのです。子どもがきっかけで地域や人とつながることって一番多いのかもしれない。ここでママ友になったりして、これはいい参考になるかなと思って見えています。

たかが、運動会でも トップを目指す

堀内 きっかけは何でもいいんです。地区の運動会とかあるでしょう。とにかく奮闘は勝負にこだわっ

ているんです。てっぺん取らんとダメだぞという意気込みです。大布施の体育大会でも奮闘は優勝しているんです。たかが運動会なんだけれども、どうしたら勝てるかというところで集まって、去年1位にならなかった種目をピックアップして何でなれなかったのか、こういう原因じゃないかと考えて、それをどうすれば上手くなるのか、ビリになった競技には担当者を付けて研究して練習するんです。その結果1番にはなれなくても2番になったとか順位が上がったりしたら、みんなが盛り上がるんです。ここまでは一生懸命にやったらやっぱり反省会も盛り上がるし、団結力やつながりが強くなります。やっぱり何か目標を見つけて、みんなで一緒にやろうよってものが地域には大切だと思います。

松井 地域活動の中でも世代を超えて交流する事業やイベントは数多くやっています。昔から語り継がれる伝統の行事や住民みんなが参加できるような公民館祭りなどあります。こういったものは、ただ楽しむだけではなく、コミュニケーションやつながりのきっかけづくりのためでもあるんです。

堀内 今の一番の問題は話をしないってことだと思っんです。近所でも家庭、親子でも職場でも。私も市役所で散々言っているんです、ミーティングをしないといふと、

というのではバランスはとれません。



人を育てる

堀内 子どもはたくましい子じゃないといけないです。どれだけ大事に育てたって、社会に出たらどうしても競争の波にのまれます。これからはどんどんグローバル化し、日本だけは別とは言えなくなってきました。もっと厳しい状況の中、精神的にも肉体的にもたくましくなってもらわなければいけないし、自分たちの生活の安全、安心を守る気配みたいなものを持つような子どもじゃないと、本当に取り残されてしまうような気がします。大事に育てることも必要だけど、たくましさ

持てるような教育、しつけをしていくことも大事だと思います。

中山 子どもたちに対する色々な期待をひしひしと感じました。福祉教育の目標が机上の空論にならないように具体的に行動していかなければなりません。各学校とも相談をしながら、地域や行政、社会福祉協議会とも連携し、黒部市全体で将来目標を実践できる子どもを育てていきたいと思います。

松井 急速な少子高齢化や核家族化によって社会が様変わりしているように感じます。そんな中、地域活動の中でも連帯感の希薄化を実感しています。自治会でも、他人まかせの風潮が強いように感じ、それは町内役員や民生委員児童委員、消防団のなり手が少なくなってきたことに現れています。この問題に関しては、子どもも大人もすべての人が市民として考えていかなければいけません。つまり、地域全体の意識改革が求められているのです。市民一人ひとりが、人のため、地域のため、社会のために思いやりの心を大切にするという気持ちを育てていくことが必要だと感じました。そして、そのような心を育む福祉教育、社会教育を社会福祉協議会としても支えていきたいと思います。

担当を決めてまかせっきりにするな、話を聞いたり相談に乗ったり、また、話しやすい雰囲気をつくることも大事です。地域でも一緒にしよ、全然顔も知らない相談員が家に来て、「何か困りごとは？」って突然聞かれても話しづらいでしょう。普段からのコミュニケーションやつながりが大事なんです。

松井 これから何か新しいものを生み出すとか建てるのかという発想も必要ですが、人や建物、伝統など地域資源を見つめ直す、意外に有効に活用できるものはいっぱいあるのかもしれない。新たな未来を見つめながらも、地域の歴史や過去をふりかえり、地域づくりの原点を探ってみることも必要だと思います。



図1 地域生活に関する中学生アンケートより抜粋 — 実施期間：平成25年6月 対象：黒部市の4中学校2年生(363人)

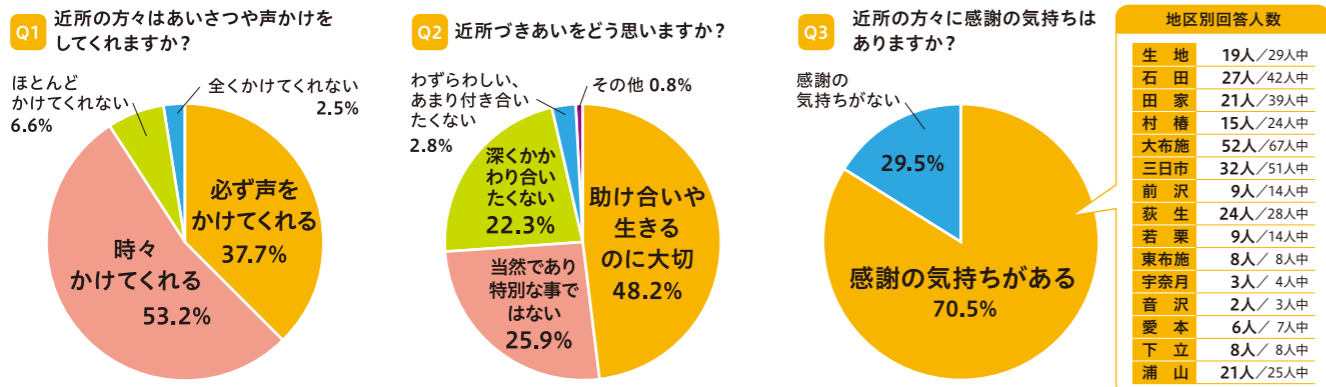
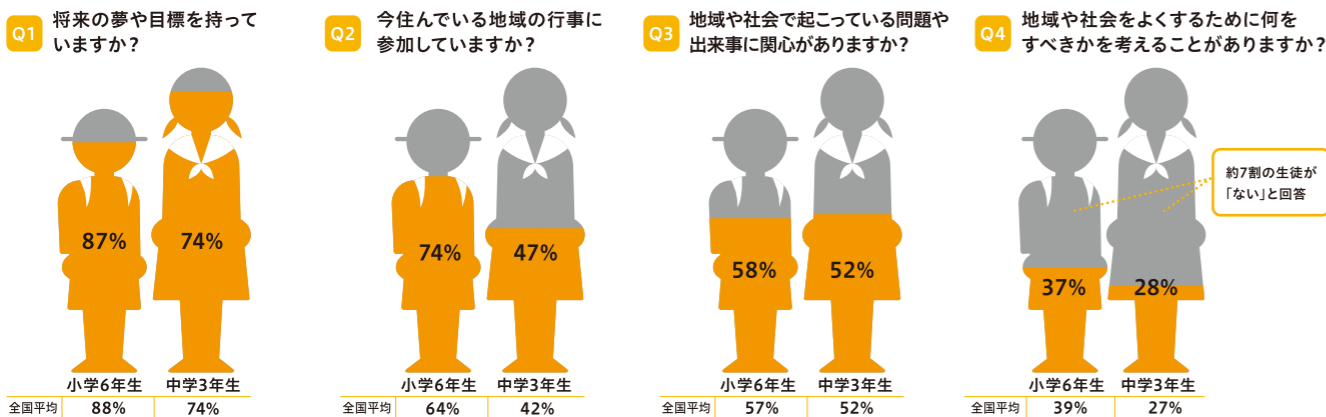


図2 平成25年度 全国学力・学習状況調査より抜粋 — 黒部市の「当てはまる」+「どちらかと言えば当てはまる」の回答



大切なのはバランス

中山 全国学力・学習状況調査というものがあって、学力調査の結果は新聞などでご覧になったりしていると思いますが、その中には学力だけでなく、こんな調査結果もあります。「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありませんか？」という質問に対し、約7割の生徒が「ない」と答えています。

(図2参照)中学生であれば5年後に20歳になるわけですが、どうしたらもっと地域や社会のことを考える力を育てるかが難しい課題だと考えています。どう思われますか？

堀内 例えば、福祉先進国と言われる国では、子どもの時から負担とサービスを考える教育をしています。だから負担が3割や5割でも、その代わりに教育費や医療費は無料、老後も保証されることで納得できるんです。負担とサービスのバランスを子どもの時から教育することは非常に大事です。

松井 その通りですね。高福祉高負担について子どもの時から教えるのが考える力を身につけていくことは重要だと思います。そして、大人になれば自分たちの思い描く社会を実現させていくために考え選択し、決めていく市民となっていくわけですから。それがないと、要望のみが益々エスカレートし、財源は少なくなる、なのにサービスは高く

pick up!
昼食までの間、和やかに会話を楽しむ参加者のみなさん



「いつも同じ場所・同じ食事」ではなく、「一歩外へ出て非日常を味わうことも大切。」と今回の企画への思いを語られました。

11月11日(月)、田家地区のふれあいランチが開催されました。市の消防本部や黒部宇奈月温泉駅をバスから見学し、セレネ美術館にて作品鑑賞後、新川荘で昼食会を行いました。間近に見えた山の風景に、参加者の白田あやさんは「楽しみにしてきましたが、若い時はよく来たけど、今はなかなか来られんから。」と嬉しそうに微笑みました。吉野地区社会福祉協議会会長は「いつも同じ

田家地区ふれあいランチ

一歩外へ出て、いつもと違った雰囲気と食事を。

活動レポート

ふくし スマイル ワーカー

スマイル
Vol.1



越野荘ショートステイ 介護福祉士
猪又 麻未 さん (25歳)

短期間の施設利用者さんの
食事・入浴・排泄など、介助を担当

“目線を合わせた介護”を心がけています

学生時代の部活動や実習で、何もできない自分に感謝してくれる施設の方々へ感謝の気持ちを伝える。利用者さん本位の“目線を合わせた介護”を心がけ、自宅での生活を長く続けられるように、できることは自分ですべて行っています。「あんた来てくれたん。待ってたんよ。」と言われると嬉しいと話す一方、5年目でまわりから期待されることも増えてきたと笑顔を見せていました。

イベントpick up!

にこにこ まつり

全館
無料開放
します

平成26年 2月8日(土) 8:30~15:30
会場 黒部市福祉センター

**チャリティー
友愛セール**
掘出し物を見つけよう!
9:30~12:00

飲食コーナー
フランクフルトや
ミニドーナッツが
食べられます

**無料なんでも
相談会**
法律、年金、税金、健康、介護、
住宅改修など、ご相談を!
13:30~15:30

●法律相談は事前の予約が必要です。
◎売上は、赤い羽根共同募金に寄付されます。

アトラクション
大布施保育所の
子どもたちの
踊りなどなど

催し物と休館日のご案内

黒部市福祉センター

1月の催し物	11日(土)	日本海歌謡研究会 歌と踊の祭典	10:30~
	19日(日)	YKK社友会歌謡同好会	10:30~
2月の催し物	2日(日)	あおいばらサークル	10:30~
	8日(土)	にこにこまつり	8:30~
	15日(土)	こぶしカラオケ愛好会発表会	10:30~
	22日(土)	黒部民謡友の会	10:30~
	23日(日)	はまなすカラオケ踊笑の会	10:30~

1月の休館日 1日(水)・2日(木)・3日(金)・6日(月)・13日(月)・20日(月)・27日(月)

2月の休館日 3日(月)・10日(月)・12日(水)・17日(月)・24日(月)

※2月12日(水)は 建国記念の日の振替休館となります。

村椿小学校と若栗小学校の6年生が体験しました。車イスの操作方法を学び、実践したり身体機能の低下を体感する事で高齢者の気持ちを考えました。



11月21日(木)—若栗小学校 6年生



11月7日(木)—村椿小学校 6年生

6年生が高齢者疑似体験、車椅子体験をしました。

写真レポート 1



11月21日(木)—黒部市コミュニティセンター(生地)

内山地区社会福祉協議会が開催した介護予防入門教室では、16名の参加者がぐるべ漁協から、今が旬のカンパチとアオリイカのさばき方、おいしい食べ方、裏ワザを伝授していただきました。

介護予防入門教室で「魚のさばき方」を学びました。

写真レポート 2

写真レポート 4

地域密着型特別養護老人ホームを視察しました。



11月12日(火)—越路さくら

下立地区社会福祉協議会が、昨年4月に荻生で開所した地域密着型特別養護老人ホーム「越路さくら」を視察しました。

写真レポート 3

石川県片山津地区社会福祉協議会が視察研修にこられました。



11月6日(木)—黒部市福祉センター 研修室

沖村市社会福祉協議会副会長、浅田・内山民生委員児童委員が出席し、同じ温泉街ならではの悩みを語り合いました。